

○果 樹

・ハウスミカン（早生温州）

カンキツの加温栽培は、熟期促進（増糖、減酸、着色、肥大などの促進）、品質向上（食味、外観などの向上、寒害回避）、生産安定（生長促進、着果増大、病虫害防止）が主な生産目標となり、これらの目標を損なわない温度管理が必要となる。

ここでは図に示した早生温州の早期加温栽培に関する温度管理の考え方について記すが、ねらった時期に収穫出荷する加温管理では、地域・作型によって設定温度やその温度維持期間が異なるため、以下はあくまでひとつの考え方の例として述べる。

		11月	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10			
生育過程		発芽蓄	満開	←二次生理落果		←肥大期			←成熟期		←夏枝発生					
作業項目		被覆 加温	新梢除去		摘果 始め	枯枝 切り 枝吊り			加温終了 サイド除去	収穫 始め	収穫 終了	間伐 夏肥 剪定	天井部 ビニ ル除去	夏枝の 枝吊り	悪い枝の 除去 誘引、 形質の	施肥
温度管理	最高	26~28, 23~25		25~28		28~32										
	最低	22~25, 18~20		20~23		24~25										
水管理		充分 灌水	葉面 散水	適湿	灌水量を 減らしていく		灌水量 制限	肥大 調整	断水	味調整 少灌水		充分 灌水	葉面 散水			
病虫害防除		越冬 ダニ	カイ ガラムシ	灰色 かび 病	リ ダ ニ	チ ヤ ホ コ リ			ア ザ ミ ウ マ (防虫網)	腐敗 防止 剤		ミ カ ン ハ モ	グ リ ガ ム シ	ア ブ ラ ム シ		

図 早期加温ハウスの栽培暦【引用文献 22) より引用】

○加温開始～発芽・出蕾期

加温開始後から発芽・出蕾までは日中最高温度 27~28℃、夜間温度 22℃程度とする。あるいは日中最高温度を 25~26℃程度として夜間温度を 24~26℃とする加温方法や、日中最高 25℃、夜間最低 20℃で加温を開始し、その後、徐々に温度を上げていく管理方法もある。

○出蕾期～開花生理落果期

ハウス全体の樹が赤道部付近まで出蕾したころ、日中の最高温度 23~25℃、夜間最低 18℃~20℃（花が弱いときは 18~19℃）とする。満開期は最高温度 23~26℃、最低温度 19~21℃（較差 4~5℃）とし、その後徐々に温度を上げていき、満開後 60 日では最高 28~30℃、最低 24℃（較差 5℃）となるようにする。なお、花が弱くて生理落花が多い場合は、低めの温度設定が必要となる。

○果実肥大期～成熟期

満開 100~110 日（着色始め前）以降は着色促進のため、10 日に 1℃程度の目安で徐々に温度を下げ、外気温が 17℃以上になったら加温を終了する。